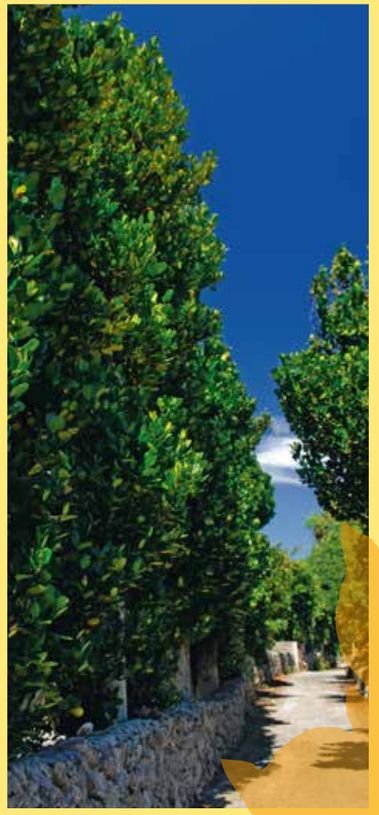
平成28年度
粟国村村勢要覧

Aguni Village



ふくらしゃる粟国
てるくふぁ島

※「ふくらしゃる」: 歓喜に満ち溢れ、よろこばしく、祝福されている
※「てるくぁ」: 島に照りそそぎ、島に恵みをもたらす太陽神

ふたつの言葉は、ともに、粟国島でうたいつがれてきた「初拝(はつうがんまーゐ)」のウムイのなかに生きています。
ウムイとはオモロと本来おなじものです。遠い時代の先人たちの心と私たちの心を、時を越えて結ぶ言葉といえます。

Aguni Village

平成28年度
粟国村村勢要覧

ごあいさつ

粟国村長
新 城 静 喜

粟国村は那覇市の北西約60ｋｍの洋上に位置し、面積7.64ｋｍ平方、周囲約12ｋｍ程の島で、一島一村で成り立っています。

発展を続ける沖縄社会の中で、本村はサンゴ石の石垣やフクギの防風林といった沖縄の原風景を残しています。

恵まれた自然環境の中で、黒糖だけでなくもちきびやタマネギの農産物、豊かな海の産物である自然海塩といった特産品もつくられています。

本村の行政として、豊かな自然と先人たちから現在へ受け継ぎ育んできた歴史風土を大切に守り、活かすことを基本に村全体の秩序ある開発と整備に取組み、魅力ある村づくりとして「自然・ひと・暮らし・ふくらしゃる粟国てるくふぁ島」を基本構想に「島しょ基盤づくり」「産業振興」「生活環境」「教育文化」「健康福祉」「住民参加・行財政運営」の6つの施策に取り組んでまいります。

この要覧は、村の状況を写真や資料で紹介しておりますが、本村をご理解していただく上で少しでもお役に立てば幸いに存じます。

平成29年3月

ふくらしゃる粟国てるくふぁ島
Aguni Village

CONTENTS

特集Ⅰ
4 むんじゅる節の里を歩く
6 海と島と太陽と豊かな自然
8 ふくらしゃる肝心
10 粟国村の民話

特集Ⅱ
12 私のてるくふぁ島
14 MADE IN AGUNI 島の特産品
16 粟国村イラストマップ
18 粟国コラム

6つのむらづくり
20 島しょ基盤づくり
22 産業振興
24 生活環境
26 教育文化
28 健康福祉
30 住民参加・行財政運営
33 資料編

太陽の恵み

Touch of the sun

ふくらしゃる粟国てるくふぁ島
Aguni Village

受け継いだ伝統を守り、
素朴ながらも喜びに満ちた島の暮らし。
島に降り注ぐ太陽の光は、
豊かな自然と、私たちの喜びを育んでいます。

那覇市の北西約60kmに位置する粟国島。周囲が約12kmの小さい島で、
豊かな大自然が残る素朴で美しい島として知られています。
特に植物や野鳥、地質等は学術的にも希少性が高く、多くの研究者が訪れるほどです。
西側が高く、東に向かって緩やかに低くなっていく地形は
粟国島独特の集落を作りあげ、
なかでも集落を海風から守るフクギ並木や飢饉に備えて植えられたソテツは、
先人達の知恵と工夫の結晶であり、緑豊かな風景を作り出しています。
粟国島に住む人々は昔から信仰心が厚く、
一年を通して祖先の霊を祀る様々な行事が催されます。
目にするもの全てが別世界のような島の風景は、
私達の五感を刺激し、普段味わえない時間を感じさせてくれるでしょう。

※ふくらしゃる粟国　てるくふぁ島
「ふくらしゃる」とは、「歓喜に満ち溢れ、喜ばしく、祝福されている」という意味。「てるくふぁ」とは、
同じく、照りそそぎ、島に恵をもたらす太陽神のこと。

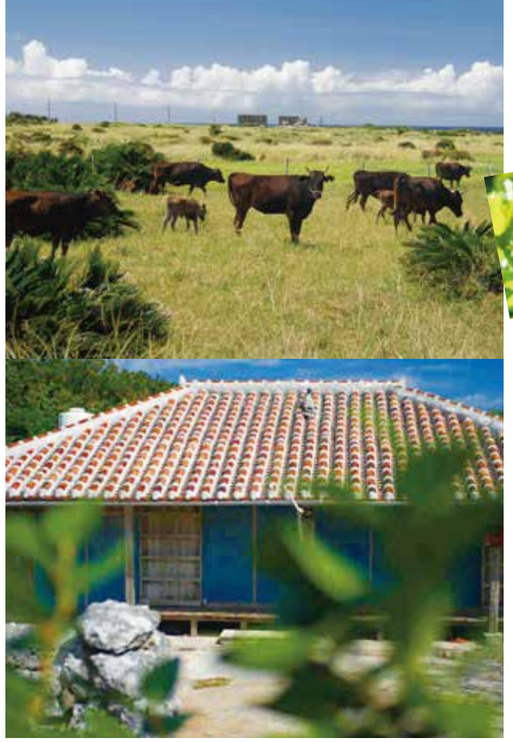
特集Ⅰ むんじゅる節の里を歩く（※1）

ふくらしゃる 粟国 てるくふぁ島 Aguni Village

沖縄の原風景が残る粟国島

サンゴ石の石垣、フクギの防風林、漆喰で固めた赤瓦屋根の民家、民家の庭を彩るハイビスカスやブーゲンビレアなどの花々…。粟国島には沖縄の原風景が人々の暮らしの場の中で今も息づいています。

粟国島は素朴さの残る島のひとつである。古い赤瓦の家やサンゴ石の石垣が残る素朴な集落、牛やソテツの育つ農村風景、周りを取り囲む碧い海などのんびりとした沖縄ながらの情景を感じることができる。



粟国島の集落は、古い赤瓦の家やサンゴ石の石垣が残る素朴な集落。沖縄本島周辺の島では、一番残っているのではないだろうか。

トゥージ

昔から水の乏しい粟国島では、西海岸にある凝灰岩(ぎょうかいがん)をくり抜いた大きな水がめ(トゥージ)に雨水をため、飲料水にしていました。島の西海岸からくり船2隻で挟んで港まで運び、船の帆柱を棒にして数人の大人たちが交替で運んだといわれています。

粟国島の集落は標高の高い南西部のマハナから北東部のウーグの浜へ向かって緩やかに下る傾斜地に広がっています。その前面には豊かな海があり、その海もまた無限のかなたへ続いていきます。周囲12kmという小さい島にもかかわらず解放感を覚えるのは、海へと誘う集落のつくりにあります。

島の中央に位置する集落には、昔ながらの風景が残っています。サンゴ石の石垣、フクギの防風林、漆喰で固めた赤瓦屋根の民家など「沖縄の原風景」ともいえる景観は、夏場に襲来する台風から家を守るための知恵が形になって生まれたものです。そこには島にあるものを利用して自然災害から暮らしを守る工夫が凝らされています。

屋敷を囲むサンゴ石の石垣にしても、無造作に積まれたものではありません。よく見ると石垣は外に対して角を丸くし、内側は直角に積まれていることが分かります。これは台風の強い風から家を守るという機能性に加え、内側の空間を最大限に使いながら、外側に対しては柔らかな曲線で集落の風景を穏やかにみせる視覚的な効果を生み出しています。外に優しく、内に強さを秘めた石垣の積み方は、沖縄では処世の心得として「外やまんまるく、内に角たてて、ぐんじゅみ(※2)の如に、浮世わたら」という琉歌にも詠まれています。

粟国島の集落の風景は、長い年月を経て、人々の暮らしの営みの中で形づくられてきました。素朴な佇まいには優しさと力強さ、そして歴史を経た誇りが感じられます。

※1「むんじゅる」とは麦ガラで作った日よけ笠のこと。沖縄のポピュラーな民謡の一つ「むんじゅる節」は、粟国島が発祥の地といわれています。
※2 ぐんじゅみ…真ん中に四角い穴の開いた円形の硬貨

洞寺の入口脇にある石碑は、古くから歌い継がれてきた島唄「むんじゅる節」の歌碑。歌は若者たちの憧れであるむんじゅる平笠をかぶった純情清楚な乙女に役人が恋してしまうという内容を中心に、島の素朴な生活の様子がうたわれています。石碑の右横は、むんじゅる平笠を手に踊る乙女の像です。

Village Walk of Munjiuru-Bushi

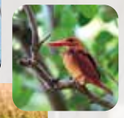
ふくらしゃる粟国 てるくふぁ島 Aguni Village

海と島と太陽と豊かな自然

水平線に佇む孤島を、深緑の木々と鮮やかな花々が彩る。
降り注ぐ太陽の光に育まれた多くの命と、太古の昔からの痕跡は、
壮大な自然の風景として今日に残されている。

大自然に息づく豊かな生態系

【bird watching】



粟国島はバードウォッチングのスポットとしても知られています。
一年を通して様々な希少性の高い野鳥を観察することができます。

筆ん崎　まるで垂直に削り取られたような約87メートルもの高さをの断崖は、火山の噴火によってできたもの。

大正池公園　島の西側にある森林公園です。
村民や観光客の散歩コースにはもってこいです！

太古へタイムスリップ

島のあちらこちらで目にするソテツは、水不足の飢饉対策のために植えられたもので、今では「ソテツの島」と称されるほど。また、集落の周囲を囲むフクギ並木は防風林としての役割があることから、粟国島の緑豊かな景観は、先人達の知恵と工夫が根づいたものと言えます。豊かな自然環境は様々な生態系を育み、希少性の高い野鳥がほぼ年間を通して観察できる他、繋牧した牛や山羊が草を食べるのどかな光景を楽しむことができます。

自然に関するもう一つの見どころは、太古の火山活動の状況を垣間みることのできる「西ヤマトゥガー」や、巨大な岩が分け隔てられた神秘的な空間の「東ヤマトゥガー」など、太古の昔から繰り返されて来た自然の姿にあります。黒や灰色、赤、白と様々な種類の岩が層を連ね、同時に見られる光景はまさに時間の積み重ねそのもの。粟国島は豊かな生態系が息づく歴史ある島なのです。

粟国島を舞台に描いた映画「ナビィの恋」では、粟国島の素朴な風景を垣間みることができます。

字西の御願の植物群落
石灰岩の地層が断層の影響により崩れ、その崖地に発達した植物群落。自然状態に近い森が残されています。

洞寺(テラ)
島の北海岸近くにある鍾乳洞。今から約200年前に問答に負けて流刑にあった僧侶が住み着き、生涯を閉じた場所と言い伝えられていることから、洞寺(テラ)と呼ばれるようになりました。

ウーグの浜
島の東側にあるこの海岸は、サンゴがつくり出した白く美しい砂浜が1km近く続いています。目の前に広がる青く透き通った海は、海水浴やシュノーケリングに最適です。

ヤマトゥガー
黒、灰色、赤、茶、白といった様々な種類の岩が同時に見ることのできる「西ヤマトゥガー」は、太古の火山活動の様子を垣間みることができる希少性の高い場所として知られています。また、巨大な岩と岩が約1mの隙間で分け隔てられた神秘的な空間の「東ヤマトゥガー」は、粟国島で神聖な場所として知られています。

With rich natural

マースヤー

ふくらしゃる肝心

ふくらしゃる粟国 てるくふぁ島 Aguni Village

ヤガン折目（ウユミ）、マースヤーに代表される粟国島独特の文化。
先人たちの心に触れるよろこびと誇りは、今も脈々と受け継がれています。

マースヤー
旧暦の大晦日の夕刻から歌や舞踊を披露しながら家々を練り歩き、無病息災と豊穣を祈願する伝統行事。

初起こし（ウクシ）
旧暦の正月3日に、豊年満作、子孫繁栄、健康を祈願し、三線と踊りで集落を回る行事。

ハーリー
豊漁や航海無事を祈願し、粟国港で行われる職場や地域で結成されたチーム対抗の爬龍船競争。

ヤガン折目(ウユミ)
旧暦の6月24日から3日間行われる島最大の祭祀。3日目には一般も参加でき、島の繁栄と人々の健康を祈願する。

先人より受け継がれる、伝統の技と文化

粟国島は昔から信仰心が厚く、祖先の霊を祀る行事は欠かしません。伝統行事や年中行事は、旧暦にのっとり島の文化として受け継がれています。

村の一年はマースヤーで始まります。大晦日の夜から元旦にかけて行われる伝統行事で、11ある各原組ごとに地域内の各家々に塩(マース)を配りながら練り歩いて歌や踊りで無病息災と豊穣を祈ります。

旧暦正月2日は船起こし（ウクシ）。船を持つ個人だけでなく、フェリーでも1年の航海安全を願って催されます。

旧暦正月3日の初起こし（ウクシ）の日に、各家庭では庭へ蒔く白砂を取りに行く習慣があります。

旧暦5月4日のハーリーは水産業を振興し、航海及び操業安全と大漁を祈る行事です。

旧暦5月15日の島ウガンには、宮小の前に各原組が集まり、供物をお供えして祝女とともに村民の健康を祈願します。

粟のご飯を作り、祖先に粟の豊作を願う「粟シチュマ」の行事が行われるのは旧暦5月下旬の壬の日。翌日は牧童の慰安日とされていました。

旧暦の6月24日、25日、26日の3日間を通して行われる「ヤガン折目(ウユミ)」は、島最大の祭祀です。

1日目は午後5時頃、各区長、各原組のヤトゥイ(雇)は祝女と共にエーガー拝所に集まり、山の神のお迎えをします。2日目は午後7時頃、東の両ヌル、西のスイミチジ、以下の神人、ニイブトゥイ神、ヤトゥイ(雇)、各区長が大中の火ぬ神の祠前に集まり、神の来臨の御礼と翌日の折目の案内と無事終了を祈願します。また、東と西の神々が同時に前に出て、同時に祈願して終わります。最終日は、午前10時頃、始めますという朝のウンヌキグト(お願い事を伝える申し開き)が始まります。年中行事の中で盛大な神事であり、村民をはじめ多くの観光客がイビガナシーに集まり健康や子宝の祈願をします。また、夜には奉納相撲が行われます。ヤガン折目（ウユミ）では、村指定文化財「松尾御嶽のイタジイの木」から、葉をカーブイ(冠)として利用します。

旧暦9月には、島の東海岸、照喜名原（通称ウーグ砂浜）にある拝所で、グーシーといわれる祈願が行われ、その昔、首里から移住して来た祖先の恩徳・偉業をしのび、祖先への敬慕の念を示します。旧暦9月1日は字浜、同9月15日は字西・東の人々が、門中ごとに沖縄本島を遥拝します。

旧暦10月1日の「カママーイ」は火災予防のために行われたのがはじまりですが、各家庭の伸びすぎた樹木の枝を伐採できる日にもなっています。

参考資料／『粟国村誌』

Cultural pride and heart

粟国村の民話

粟国村には数多くの民話が語り継がれています。
その中から代表的な二つの民話を紹介します。

野厳折目（やがんうゆみ）の由来

島の北の海岸近くの野厳と言うところに、アラバ御嶽があります。
昔、その野厳あたりには、恐ろしい神がいて、通りかかった人の鼻をつまんで抜いたり、
目を悪くしたり、また妊婦を流産させたりいろいろな災いをもたらしました。
特に災いがひどくなる6月20日ごろになると、そこには誰も行かなかったそうです。
これでは畑仕事も出来ないというので、島の騒動を今帰仁の北山王へ訴え出たところ、
北山王から、平敷大主という役人が派遣されて、この野厳を調べました。
平敷大主は北山に帰って王に「島の人にいろんな災いがかかっております」と報告すると、
王は平敷大主に鎮めるように命じました。
平敷大主は再び島へ渡ると持ってきたバーイ（塩漬けの干し魚）と米、粟、イカを野厳洞窟の前に置き、
みんなでやチジン（鼓）を鳴らして、アラバ御嶽の神をおびき出しました。
すると神は、野厳洞窟を出てガダノコ御嶽へ移り、さらに字東の民家の前から、威部加那志（いべがなし）まで来ると、
姿が見えなくなり、その後は暴れることもなくなりました。
アラバ御嶽の神を鎮めた平敷大主は、エーヌ殿の中に今帰仁御神として祀られたそうです。
今でも威部加那志（いべがなし）には今帰仁城を拝む所があります。

ガダノコ御／字西にある聖地。（諸説あり）
威部加那志／字西の八重大中御嶽のこと
エーヌ殿／威部加那志の宮小と呼ばれる拝所に祀られている。

海馬（うみうま）と御恩石（ふんじいし）の戦い

宇根武原（うにんばる）の麓の道のすぐ傍に、御恩石という立派な石が立っています。
昔、海馬という怪物がこの島の人を喰おうと、西の海から上がって来きました。
すると、この石は、村を守るために海馬に立ち向かっていきました。
海馬は、石に頭をすりつけるようにして暴れましたが、徐々に弱ってきて、
ついにはヌルガーで水を浴びて海に戻って行ったのです。
この石は、海馬と戦って村の人を助けたことから、「御恩石」呼ばれるようになり、
今も祀られています。道を広げたり、何か工事するときも、
その石だけは動かさずにそのまま置いてあるそうです。

宇根武原／字東から粟国空港に行く途中の原野。
御恩石／海から出現した怪物から、島人を守った のでこの名がある。
海馬／ふつうセイウチを指すことが多い。ここで は、馬のように大きい海獣の意味か。
ヌールガー／字西の背後の丘陵上にある池。昔ここで祝女が水浴し、身を清めたことから、この名がある。

特集Ⅱ 私のてるくふぁ島

むんじゅる　インタビュー

天然塩づくり、観光、農業の分野で、島の将来を見据え、自らの仕事に取り組む3人の島人に、仕事への思い、島への思いを語っていただきました。

株式会社沖縄海塩研究所
所長
小渡 幸信さん

すべての生命は海から

今から約36億年前に、すべての草や木や動物が海から誕生したといわれています。そして、海に残ったものと陸に上がったものがあります。約3億年前後にして、人間の祖先も陸に上がったといわれています。私たちの体は海の成分がほとんど含まれているといわれており、塩は、空気・水とともに、生物が生きるために最小限欠かせないものなのです。

私は4人の学者とともに、本来塩がどうあるべきかという観点から22年の研究の末、粟国の塩が生まれました。塩づくりのために粟国島を選んだのは、汚染が少なくてきれいな海水があるからです。また粟国島は、マースヤーという正月の塩売りの伝統行事があり、塩の大切さを行事を通して伝えてきた島なのです。

塩の役目は3つあります。食べ物の味を引き立てることのほかに、栄養の吸収と排泄という役目です。それは健康に生きるために大切なものであると思います。そのために塩作りは、海水に含まれている超微量元素まで残さなければいけません。

海から生まれたわたしたちは、海の元素が体から不足すると体は弱ってくるのではないでしょうか。

今では、国をあげて減塩政策を進めていますが、私たちの体は適塩を要求しているのだと思います。必要な塩を料理の適塩として使うことによってわたしたちは健康に生きることができるのではないかと思います。私はこれからも人間にとって塩はどうあるべきかという研究をさらに続けていきます。

サトウキビ農家
末吉　信輝さん

サトウキビ農業の活性化をめざして

仕事として始めたのは漁業の方で、漁業協同組合の組合長も務めました。粟国の漁業を発展させるために、取り入れた新しい漁法がかつおのビシマ釣ととびうお漁です。ビシマ釣は高知県の室戸岬に視察研修にいって学んできた漁法で、重いナイロン製の糸にナマリをつける事で比較的深いところにいるカツオも釣れるようになり漁獲量が増えました。伊江島の又吉さんという漁師から学んだとびうお漁は、特殊な網を組合で購入して始めました。粟国では加工がおいつかず、那覇の漁連に売っていたのですが、この売上で粟国漁協組合の資金はかなり増えました。ただ、漁業は体力がないとできない仕事。手伝ってくれていた妻も歳を取って出来なくなり、一人ではとてもきつかったので漁業は辞めました。

農業は、製糖工場を管理していた父が亡くなった後を継いで工場長になったのを機に始めました。サトウキビ栽培では年間60トンという当時ではトップクラスの収穫高をあげたこともあります。工場長としてサトウキビの苗植え方法や収穫方法のノウハウを作り上げ、製糖工場の運営方法の改革にも取り組みました。

現在、粟国のサトウキビの収穫量は2,541トン程度しかありません。せめて4,000トン近くの収穫があれば国にハーベスターの導入をお願いする事ができる。そうすれば収穫がとても楽になるのでサトウキビを始める農家が増えると考えています。今、粟国でまとまった収入がある仕事はサトウキビしかありません。今後、サトウキビ農業を盛り上げる事で、若い人やUターン組が興味を持ち、粟国に移住する人も増えて活性化が期待できる。これからもサトウキビ農業をもっと盛り上げることを訴え続けていきます。

粟国村女性連合会
会長
呉屋　貴美江さん

女性の力で島づくりを盛り上げたい

女性連合会の活動の内容は、まず村内の草刈りや花植えなどの美化活動。島に帰ってくる方々から「以前より村がきれいになった」と好評で、沖縄県婦人連合会南部地区から美化環境に関する表彰も2年連続で受賞しました。また、「むんじゅるの日」の記念公演や離島フェアなどのイベントの際は、琉球舞踊や「むんじゅる節」、「くさとぶし」の踊りで盛り上げています。

特産品づくりにも取り組んでいて、島唐辛子を粟国の塩でブレンドしたオリジナル薬味やオリジナルシークァーサージャムは大好評をいただいています。

それから、離島体験交流事業では子ども達に料理教室を開いたり、踊りを教えたりと交流にも力を入れています。女性連合会の集まりは仕事を終わった後、週２回ほど行っていますが、みんなで健康の話をしたり、踊りの練習を１時間くらいしたりする事で、とてもリフレッシュされます。

課題は若い人材の不足。現在、70代の先輩方が一生懸命連合会に参加してくれているので何とか活動が続けられていますが、若い人たちの積極的な参加を期待しています。

女性連合会には那覇在住の方も6名くらい入会しているのですが、離島フェアなどの那覇で開催するイベントや島での大きな祭りも手伝っていただいたり、いつも粟国の事を考えていただいて、素晴らしい結束力があると思います。そんな女性連合会への入会をお待ちしております！

女性連合会の活動で、子どもや女性、お年寄りに「粟国に生まれて、住んでよかった」と思ってもらえるような島にしていきたいですね。

MADE IN AGUNI 島の特産品

粟国島では、島の自然、風土、文化を生かした特産品づくりが取り組まれています。

■自然海塩、にがり

昔ながらの伝統製法を用いて造られる粟国の手塩。カルシウムやマグネシウム、鉄を含んでいるため、独自のうまみと柔らかな味が特徴です。また、粟国の塩を製塩する際に出てくる天然にがりは、豆腐づくりをはじめ、様々な用途に用いられています。

(株)沖縄海塩研究所　TEL:098-988-2160

■もちきびかりんとう／あぐにようかん

粟国島産のマージン(もちきび)を原材料に使った手作りかりんとう。もちきびの味が際立つプレーン味と、黒糖をからめた黒糖味、ミネラルが豊富な粟国の塩味があります。また、アカマーミー(小豆)をじっくり煮詰めて作った甘さ控えめのようかんも人気。種類はプレーン味、黒糖味、粟国の塩味の3種類。

粟国農漁村生活研究会加工部
TEL/FAX:(098)988-2059
粟国製菓所　TEL:(090)7455-9788

■黒糖

粟国産の新鮮なさとうきびを使用。平成23年度に完成した新しい製糖工場で造られる黒糖は、風味がよく、ビタミン、ミネラル、カルシウムを多く含んでいます。

JAおきなわ粟国支店
TEL:098-988-2409

■そてつ味噌

島内で頻繁に目にするソテツの実からデンプン質を取り出して作った手作りみそ。鉄分やミネラル分が豊富に含まれ、サラッとした味わいが特徴です。味噌汁のほか、和え物や煮物にもよく合います。

粟国村ソテツ味噌生産組合
TEL/FAX:(098)988-2059
粟国製菓所
TEL:(090)7455-9788

■塩サイダーキャンディ

粟国島では地域おこし協力隊による特産品開発も行っています。「塩サイダーキャンディ」は粟国島の特産である「粟國の塩」を練り込み、粟国島のキャラクターであるアニーちゃんの顔を中心にし、ウーグの浜をイメージしたさわやかな粟国島のオリジナルキャンディです。

JAおきなわ粟国支店　TEL:098-988-2409

■もちきび

粟国島では「マージン」の名で親しまれている「もちきび」。白米と比べ、食物繊維やカルシウム、マグネシウム等を多く含む栄養価の高い穀物。お米に混ぜて炊くともちっとした食感が楽しめます。粟国島の大自然のなかで育てられたもちきびを是非ご賞味ください。

JAおきなわ粟国支店
TEL:098-988-2409

■もちきび麺

粟国島の特産であるもちきびの粉末を練り込んだ、粟国島オリジナルの乾麺「もちきび麺」。茹でたあと氷水で締めて「ざるそば」のように食べていただくと、もちきび由来のもちもちとした食感とつるつるっとした舌ざわりを楽しめます。他にも、パスタ風やかけうどん風、チャンプルーなど、アレンジしてお楽しみください。

JAおきなわ粟国支店　TEL:098-988-2409

女性たちの創意工夫が生かされた特産品

もちきびかりんとうやあぐにようかんを製造している粟国農漁村生活研究会加工部とそてつ味噌を製造してる粟国村ソテツ味噌生産組合は島の女性たちで構成され粟国島の黒糖、塩、ソテツ、もちきびなどの特産物を活用し、二次製品研究開発にとりくんでいます。

昭和32年に発足された「生活改善実行グループ」が母体となっていて、現在は「農漁村生活研究会」として活動し、農村婦人の生活改善・資質向上として、料理教室、野菜栽培講習会等にもとりくんできました。

昭和60年代の「一村一品運動」が契機となり、「ささげようかん」「そてつ味噌」の製品化をスタートし、平成２年には特産品加工センターが建設され商品開発の強化策として、生産活動に携わる「加工部」が結成されました。

特産品づくりの体験教室や次世代への後継者育成も行い、こういった女性としての創意工夫を生かした情熱と行動力は、島の地域活性化に寄与されています。

平成9年　離島フェアで「島おこし奨励賞」受賞
平成11年　「全国農業協同組合中央会会長賞」受賞
平成12年　県知事賞（農業改良普及事業）受賞
平成13年　離島フェア特別賞（もちきびかりんとう）受賞
平成15年　離島フェア特別賞（そてつ味噌）受賞

地道な活動と功績が認められ平成19年には農林水産大臣賞も受賞しています。

豊かな自然、独自の文化、むんじゅる節発祥のふるさと。

西地区

1. ヤマトゥガー
2. カキノ殿
3. ヌルドゥンチ(宮小)
4. カンカーハイ
5. トゥマンナ殿
6. イビガナシー(八重大中)
7. モービラチジ
8. 字西の御願の植物群落（沖縄県指定・天然記念物）
9. イキントーガー
10. タレーラムイ
11. ガタノコ御嶽
12. 大正池(ミーガー)
13. ヌルガー
14. 龍王ブリー
15. ナラチカー
16. 草戸御願
17. シマイ御嶽(松尾御嶽)
18. 松尾御嶽のイタジイの木（村指定・天然記念物）
19. テラチ御嶽
20. 番屋塚（村指定・史跡）
21. 番屋原の広場の景勝の地（村指定・名勝）
22. 筆ん崎
23. 洞寺(テラ)

その他
24. トンヌエー
25. トゥイヌヌブンジ
26. ジンバマ
27. 天人扇(あままーおうじ)
28. トゥージウサーラー
29. イソージ
30. 土蔵(チチグラ)
31. イルチンガー
32. アナガー
33. 西ノハ
34. アカムヤー
35. ターンスク
36. 前原の大石
37. アラカチーカー
38. トゥンチェードゥンチヌカー
39. トーミーカー
40. イサラーカー
41. 八重川グスク

東地区

1. 忠魂碑・慰霊塔
2. イチンチャ（イシンサ）
3. 唐人墓
4. 坂木那原海岸景勝地（村指定・名勝）
5. トゥマイ小
6. ククヤムイ
7. ふるさと資料館
8. ミルク
9. 安里ノ殿
10. ババノ殿
11. アガリンガー
12. サーターグルマ
13. 仲里カー
14. ナカマーカー
15. ウヘージ
16. アラバ御嶽
17. ヤガン御嶽

その他
18. ハンタ上ノカー
19. ハンタ下ノカー
20. サキダカー（防火水槽）
21. 子ノハ

浜地区

1. シールー(シヌルー)
2. 下のカー
3. 上のカー
4. 番所カー
5. アダンナノ殿
6. ユノーサーウガン
7. ナカガー
8. チヤガーカ(テーガーガ)
9. ムイ小(ユーウクシムイ)
10. 観音堂
11. ニジリチュー
12. ボージャーイノウ
13. 運ん崎
14. スイウトゥーシ
15. ヘータキ
16. ナカタキ
17. ウフタキ
18. モンパノキの群落（村指定・天然記念物）
19. ウーグの浜

その他
20. アハグゥーカー(跡)
21. クシガー(防火水槽)
22. ユーナカチヌガー(跡)
23. ンマトゥガー
24. 午ノハ
25. ハナンダ
26. 卯ノハ

《原組名の概要》

粟国村には字の行政区をさらに細分化した原組という独自のコミュニティがあります。かつて、浜区においては16の原名、東区においては34の原名、西区においては33の原名がありました。その後、土地改良区総合整備事業などが行われ、換地登記により、一部の原の統合が行われました。

いつごろから原名で呼ばれていたのかは定かではありませんが、現在、小字として字浜は3組、字東は4原、字西は4原と、11の原組が残っています。

(字浜誌より、抜粋)

洋上から望む粟国島の南西側には、英国にある白亜の崖を彷彿とさせるような地形を見ることができます。この島の人はこの柔らかい岩質である凝灰岩を巧みに利用し、トゥージ（チューディ）と呼ぶ水溜や終（つい）の住処まで作り上げました。厳しい自然環境ながら、たくましく生きた先人の知恵が今も島の各所に見受けられます。

海岸から見た筆ん崎

モンパノキの群落

むんじゅる節の碑

集落から出ると緑豊かな田園風景が広がる

マハナ(筆ん崎)より渡名喜島を望む

マハナ（筆ん崎）からの風景

粟国コラム

人生の応援歌「シタリー節」

粟国島には小・中学校までしかなく、高校に進学するには島を出なければなりません。新緑が芽吹き始める3月、わずか15歳で島を離れていく子ども達を、かつて港で見送る母親や祖母たちが、自分の胸の思いを即興で歌った歌が「シタリー節」です。

「これから出会う人々と心を合わせ、良き結果が得られますように、心は平和で、体は頑丈、知恵を磨き頑張る力が備わりますように」シタリー節にはわが子を見守る親の情愛が込められており、島を出ていく子ども達の心には歌の歌詞とメロディーがしっかりと刻まれます。

港を出た船は那覇を目指します。小さくなっていく故郷から言い知れぬシタリー節のパワーが呼びかけ、志に火が付き、流した涙はやる気にかわります「やってみるか、やってみろ、君ならできる、負けるな」と自らを鼓舞して那覇泊港に上陸する子どもたち。

たとえわずかな少年時代であっても故郷粟国島はいつまでも心の中で生きています。シタリー節は人生の応援歌であり、「15の春」の島立ちの際、少年時代の故郷に別れを告げ別離の寂しさを希望に変えて青雲の志を胸に「立志の心」で旅立つ原点の歌なのです。

粟国村では「シタリー節」をこれからも村民の教訓歌として大切に受け継いでいくために、歌碑を建立しています。

バルチック艦隊を最初に発見した奥浜牛（おくはまうし）（1876年～1920年）

1905年、日露戦争時に行われた日本海海戦に先立ち、バルチック艦隊発見の知らせを宮古島から石垣島に伝えた5人の漁師は、のちに「久松五勇士」と呼ばれ、その名を歴史に残している。ところで、バルチック艦隊を最初に発見したのは、奥浜牛という粟国島出身の青年だったということは、あまり知られていないのではないだろうか。

1905年5月23日、那覇から宮古島へ雑貨物を運んでいた奥浜氏は、極東へ向っていたロシア海軍のバルチック艦隊に遭遇した。バルチック艦隊も彼を視認していたが、龍の大漁旗と、独特の長髪のために中国人と判断して捕えなかったようだ。奥浜氏は宮古島の漲水港（現・平良港）に26日午前10時頃に着き、駐在所の警察官とともに役場に駆け込み、その情報を伝えたのである。

奥浜氏は世を去る時、請書に捺印した印鑑を遺族に渡した。その時遺言として、その印判は自身が重大な役目を果たしたるものだから、他日の役に立つことがあろうと遺されたという。

Aguni Village

自然・ひと・暮らし
ふくらしゃる粟国 てるくふぁ島

「ふくらしゃる」とは歓喜に満ちあふれ、よろこばしく、祝福されている、という意味で、「てるくふぁ」は、島に照りそそぎ、島に恵みをもたらす太陽神の名。この２つの言葉は、ともに粟国島で歌い継がれてきた「初拝(はつうがんまーい)」のウムイの中に生きており、遠い時代の先人たちと私たちの心と心を時を超えて結んでいます。

6つのむらづくり

1. みんなで豊かな自然を大切にする－**島しょ基盤づくり**
2. みんなで活力と魅力を創出する－**産業振興**
3. みんなで安全・快適な暮らしを整える－**生活環境**
4. みんなで誇りと愛着の持てる人間力を育む－**教育文化**
5. みんなで支え合い、健康で安心した暮らしを築く－**健康福祉**
6. みんなで心かよわせ、協働のむらづくりに取り組む－**住民参加・行財政運営**

1

みんなで豊かな自然を大切にする ―島しょ基盤づくり―

本村の豊かな自然を大切にした土地の利用を進めるとともに、省エネルギー・新エネルギーの導入に向けた取り組みをすすめ、みんなが自然にやさしい暮らしを営む社会の実現を図ります。

また、島外交通体系の充実・通信ネットワークの拡充に取り組み、離島の厳しい自然環境・条件の中で、村民が豊かな暮らしを営むことができる環境の実現をめざします。

この空中写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真を使用した。(承認番号　平24沖縄、第2号)

■島の自然を大切にしながら土地利用

粟国村はリゾートなどの観光開発が行われておらず、豊かな自然が色濃く残されており、特に動植物、地質などについては学術的にも希少性が高く、島の宝が残されています。平成24年11月には島の全域が県の鳥獣保護区(島中央の御嶽林は特別保護区)に指定されました。

粟国村では、島の特性を考慮に入れた土地利用の大切さを村民と共有しながら、自然環境の保全、活用の取り組みを充実するとともに、村民の暮らしを守りながら、島の活力を促進する土地利用を進めています。

■環境にやさしい粟国村

平成22年度には、「粟国村地域新エネルギー・省エネルギービジョン策定等事業」を実施、重点的に太陽光、太陽熱及び小水力利活用の可能性調査を行いました。「きれいで美しいふるさと」“グリーンエコアイランド粟国村”の理念の実現のため新エネルギーの積極的導入に取り組んでいます。平成26年には風力発電設備が完成し6月より稼働しています。また外灯や公共施設に高効率・省エネルギーのLED灯の導入も促進しています。

■島人の暮らしを支える島外交通の充実。

離島村である本村にとって、島外との交通ネットワークは欠かせない基盤です。海上交通は、村営の「フェリー粟国」が泊～粟国間を1日1往復運航、村民の生活や村の産業振興にとって大きな役割を果たしています。また、島内では平成26年から村営のコミュニティーバスとデマンド型乗合タクシーを導入し、交通弱者や来島者の村内での交通移動手段確保に取り組んでいます。

■島人の暮らしを豊かにする地域情報化

昭和54年4月に電話が自動化され、さらに、現在はNTTドコモ、セルラー(au) そして、平成25年度にはソフトバンクも利用可能になり、全域で利用可能となっています。

昭和58年には防災行政無線が整備されましたが近年、施設の老朽化や個別受信機の不備などにより、情報が十分に伝達されていない状況があることから、平成22年にデジタル化、及び平成23年には全世帯に個別受信機を設置しました。平成17年にはADSL環境も整備され、さらに通信基盤の高度化のため平成28年度には、先島地区と南部離島地区で新しい海底光ケーブルも開通しました。

2 みんなで活力と魅力を創出する ―産業振興―

粟国村の産業全般の活性化に向けては、基幹産業である農畜水産業を素材としたものづくり産業の振興や、体験型のツーリズム事業の育成を図るなど、異なる業種間の連携によって経済的な付加価値の上昇や、魅力ある就業の場の形成に取り組んでいます。

■観光・レクレーションの振興

観光については、平成22年に設立された一般社団法人粟国村観光協会を中心に、粟国村にある自然や歴史、文化、産業、社会資源などの総合的な魅力を活性化して結ぶ取り組みを進めるとともに、体験ふれあい型の観光・レクリエーションの開発・育成を図っています。

■粟国島パークゴルフ場

平成24年5月、海を見渡せる景勝地・マハナ近くに粟国島パークゴルフ場が完成しました。大自然を満喫しながら、子どもからお年寄りまで、健康づくりだけでなく家族・友人との交流を深める場として、広く利用されています。

■元気な農業・畜産業を育てる

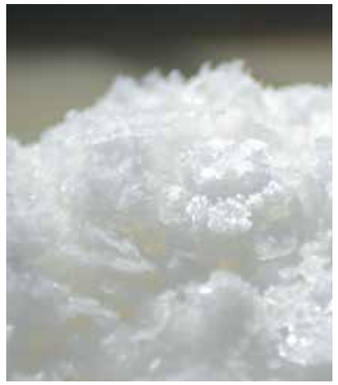
農業を活力ある基幹産業に育てていくため、圃場整備やかんがい施設などの基盤整備の推進に取り組むとともに、付加価値の高い品目栽培や遊休農地の解消、農産加工品の開発、地産地消の普及、農業活性化に取り組みます。また、村営牧場を充実させて、畜産業全般の育成をリードする役割とともに、体験交流といった新たな展開などを模索し、多面的な経営の安定化に取り組んでいます。

■海を守り、つくる水産業

粟国村では、漁業設備の近代化や観光漁業(ブルーツーリズム)、水産加工業との連携システムの構築、また、後継者が魅力のもてる元気な漁業づくりに取り組んでいます。また、漁港の多面的活用や地元消費の奨励、養殖導入の検討など、柔軟な発想で、村民生活に直結した漁業の育成にも力を入れています。

■粟国島ならではのものづくり産業

粟国村では、農畜水産加工という一次産業と連携した特産品づくりや、海水からの産物である塩づくりのように、この島の自然を材料とした商品づくりなど、コミュニティービジネス的な発想でものづくり、産業おこしの支援とともに、こうした趣旨にかなうものづくり振興の人材の受け入れにも取り組んでいます。



3

みんなで安全・快適な暮らしを整える ―生活環境―

粟国村では道路や上下水道の整備・充実、環境衛生の向上など、村民の根幹を支える環境を整えるとともに、集落の環境の整備や景観の保全・育成・創造に務め、災害時や緊急時の対応機能を高めて、誰もが「島で暮らしたい」と思う、そして誰もが島で暮らし続けることのできる環境作りを進めています。

■島に暮らし続ける環境を

粟国村では若者の定住化を推進しており、その受け皿となる村営住宅を10棟（34世帯）建設し、また移住希望者の住居を確保するため、平成28年には、単身者用の村営の定住促進住宅6戸を建設しました。子どもからお年寄りまで、誰もが快適で安全に暮らすことのできる集落環境の整備、充実に取り組んでいます。

■粟国らしく美しい景観

先人達の知恵が生み出したフクギの屋敷林や石垣などは景観的にも優れ、年月を経た現在も集落内に落ち着きを与え粟国らしい景観を作り出しています。また聖域である御嶽や拝所、集落内の道路沿いなどでは地域住民が自主的に緑化・美化活動を実施しており、集落内に潤いを与えています。

■誰もが安全で快適に利用できる道路環境

粟国村の道路網は、現在、県道1路線、村道103路線となっています。

現在、村では、島内一周道路の整備をはじめとした島内道路ネットワークの整備・充実をすすめているほか、道路の状況に応じた緑化・美化や交通安全対策の充実を図り、誰もが安全で快適に利用することができる道路環境の実現に努めています。

■環境にやさしい安全・快適な上下水道

粟国村は孤島性の高い離島であるため、水資源に乏しい地域環境にあります。そのため生活用水は長い間、降雨や井戸水を利用してきましたが、昭和62年にかん水淡水化施設を伴う簡易水道が整備され、平成15年度には海水淡水化施設に変更し、水の安定供給を図っています。

■島人の暮らしの安全・安心を守る

粟国村は消防本部の非常備化団体であるため、消防組織としては消防団のみで構成されています。粟国村消防団は昭和47年5月に結成され、火災消防作業をはじめ、台風時の災害対策や急患者搬送を行っています。

■ゴミを減らして再資源化

粟国村のごみ処理施設は平成16年に焼却施設構造基準に適合した施設が整備されました。平成10年度には埋立容量15,000m³を有する一般廃棄物最終処分場が整備されています。平成27年からは、ゴミ質の多様化や施設の老朽化に伴い、家庭ゴミの有料化、戸別回収をスタートし、『燃えるゴミ』については那覇・南風原クリーンセンターへ処理を委託しています。ゴミ回収については、4種類分別を実施し、空き缶やペットボトル、古紙等についてはリサイクルに取り組んでいます。さらなる循環型社会の形成を図るため、生ゴミの島内処理体制を構築します。

4

みんなで誇りと愛着の持てる人間力を育む ―教育文化―

粟国村では、離島村特有の「15の旅立ち」に伴い、じりつ（自立・自律）できる子どもの育成を進め、地域全体で子どもたちを見守り育てる教育環境づくりに取り組んでいます。また、村民一人ひとりの生きがいづくりや、地域活動の担い手となる人材の育成に努めるとともに、地域の歴史・文化を継承し、村民一人ひとりがふるさとに誇りと愛着を持つむらづくりを目指します。さらに、県内外との交流の機会をつくり、国際性に富む幅広い視野を持つ人材の育成に努めます。

■みんなでたくましい子どもたちを育てる

本村の学校教育は「豊かな心を持ち、自分で考え、進んで学習する子」の育成を目標に掲げ、幼児・児童生徒の生きる力を育んでいます。

幼児・児童生徒数はほぼ横ばいで推移しているものの、長期的には減少傾向にあります。

平成27年から給食の無料化を行い、平成28年には幼稚園の3年保育・保育料無料化、また園舎・学校舎を新築し、子どもたちがのびのびと学習でき、心身共に健やかな成長を促進する環境づくりにも取り組んでいます。本村特有の伝統文化の体験学習にも力を入れ、また「15の旅立ち」に向けて、職場体験等のキャリア教育も行っています。さらに、離島という地理的条件による教育環境格差を解消するために、平成27年に村営塾を開設しました。家庭・地域・学校・行政の連携を強化し、地域全体で子ども達を見守り、育ててゆく教育環境の充実に取り組んでいます。

■一人ひとりの生きがいをつくる

本村の生涯学習活動は、村民一人ひとりの自己啓発及び生きがいづくりを推進するうえで重要であり、島の自然を活かした野鳥観察会や星空教室など、村民自らが創り上げてきた自発的な活動に取り組んでいます。

■視野を広げる交流活動

本村での生活や生産活動は常に島外との関わりで成り立っており、他方面にわたる交流の経験は、村民一人ひとりの資質の向上や生きがいづくりにつながるだけでなく、未来の粟国を担う人材にも大きく寄与しています。

■粟国の誇りや財産をみんなで受け継ぐ

本村では、島の風土と先人たちの創意工夫によりマースヤー、ヤガン折目など特徴ある地域文化が形成されています。琉球民謡の「むんじゅる節」は粟国村が発祥の地で、6月16日を「むんじゅる節の日」として制定し記念行事を挙行しています。このような先人から受け継がれてきた有形・無形の地域文化は、現在も村民の生活と深い関わりをもっており、村民の誇りを受け継ぐうえでとても重要な役割を果たしています。

5

みんなで支え合い、健康で安心した暮らしを築く ―健康福祉―

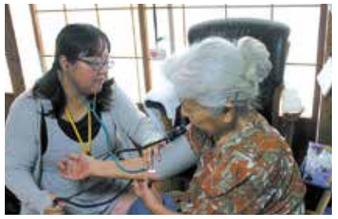
粟国村では、子どもから高齢者、障がいのある人も、すべての村民が住み慣れた地域で、安心して暮らし続けることのできる福祉のむらづくりを目指します。そのため、安定した保健・医療サービスを進めるとともに、心と身体の健康づくりを支援します。また、子育て家庭や、高齢者、障がい者（児）などに対する福祉サービスの提供に努めるとともに、地域での見守り体制や誰もが気軽に社会参加できる環境づくりをすすめています。

■健やかで安心して暮らせる保健・医療サービス

現在、粟国村には医療施設として県立診療所が設置され、医師1人、看護師1人、事務職1人が常勤し、平成27年度にはあぐに薬局も設置して、村民の診療や健康増進にあたっています。これからも村民が安心して健やかな暮らしが営めるよう、村外の医療機関と連携した、安定的で迅速な医療の拡充をすすめています。また、生活習慣病の予防などの保健指導の強化と、国民健康保険制度の円滑な運用に取り組んでいます。

■いきいきと暮らし続ける長寿のむら

粟国村では、第5期となる「粟国村高齢者保健福祉計画」を平成21年3月に策定し、高齢者の実態把握や介護予防教室の開催をはじめ、地域包括支援センターを中心に、民生委員・児童委員、保健師、区長などとの連携による高齢者に関する相談など、包括的に支援しています。



■安心して子育てできる環境を

粟国村では、子ども・子育て家庭を包括的に支援するため、子ども・子育て支援法第61条に基づき、平成27年3月に粟国村子ども・子育て支援事業計画を策定しました。延長保育や村立幼稚園での預かり保育の実施、また乳幼児医療費の助成、出産準備金及び出産祝い金、妊婦健診時の航空運賃・フェリー運賃の助成等を行っています。すべての子育て家庭を支えるため、行政・村民が一緒となって総合的な子育て環境の整備を目指します。

■みんなで支えあう

粟国村では、第2期となる「粟国村障害者計画及び障害福祉計画」を平成21年3月に策定し、障害者自立支援法に基づく各種サービスの展開をはじめ、教育や住宅、就労などの幅広い分野に関する支援に取り組んでいます。

■生涯にわたって安心を

粟国村では、生活保護世帯などの社会的支援を必要とする世帯に適切な支援を図るとともに、老後の安定した生活が過ごせるよう、国民年金制度の円滑な運用に取り組んでいます。

■ともに支えあう地域社会

粟国村はマースヤーなどの伝統文化が根付き、村民同士による助け合いや交流が残っています。村内には3つの集落(字)や、さらに原（はる）や組といった地域コミュニティをはじめ、老人クラブ連合会や女性連合会などの各種団体が組織され、自主的な活動を展開しており、むらづくりの様々な場面においても貢献しています。

6

みんなで心かよわせ、協働のむらづくりに取り組む—住民参加・行財政運営—

子どもや女性、青年や高齢者、事業者などの島に関わるみんなが主役になって、積極的に関わっていく協働によるむらづくりをすすめます。そのため、多様な住民ニーズや新たな行政課題を的確に捉えるとともに、わかりやすい村政情報の提供や地域住民の参加・参画によるむらづくりを推進します。

また、より効率的な行政の体制づくりや適切な事務執行に取り組み、行政サービスの向上を図ります。さらに、安定した自主財源の確保や中長期的な展望に基づく財政運営に取り組みます。

村長
新城 静喜

副村長
伊佐 文宏

教育長
末吉 良治

■住民参加の仕組みづくり

粟国村では村民が自らむらづくりのあり方を考え、参加・提案・協力して、積極的にむらづくりの役割を担っていけるよう、ホームページや広報誌の充実に取り組んでいます。

また、郷友会など本村を外部から支える人々のネットワークとの連携・拡充を図りながら、地域住民が主役のむらづくりに取り組んでいます。

http://www.vill.aguni.okinawa.jp/

■効率的な行政運営

粟国村の行政機構は、村長、副村長をはじめ、総務課、会計課、民生課、経済課、船舶課の5課と教育委員会から構成されています。

効率的な組織体制の充実・強化や職員一人ひとりの能力向上と、適切な事務執行や広域行政の連携などにより、行政サービスの向上に取り組んでいます。

村章・村木・村花・村花木・村歌

A chapter, a tree, a flower, flowering trees, song of the village

村章

海を象徴する青地の中に粟国を象徴する頭文字「ア」を島の形態に合わせてデザインしている。
その図は、粟国の3カ字に因んで3つの部分によって構成され、下辺の四辺形は村民の固い決断を表し、上方に広がる円弧は村の限りない発展を象徴している。
［昭和56年11月31日制定］

村木 フクギ

オトギリソウ科の常緑高木。原産地は台湾・フィリピン。

選定理由

昔から防潮・防風林等の屋敷木として植栽され、フクギ並木は緑の村づくりを象徴。
［平成11年6月14日選定］

村花 テッポウユリ

別名リュウキュウユリ(琉球百合)。南西諸島の海岸の崖などに生えている。

選定理由

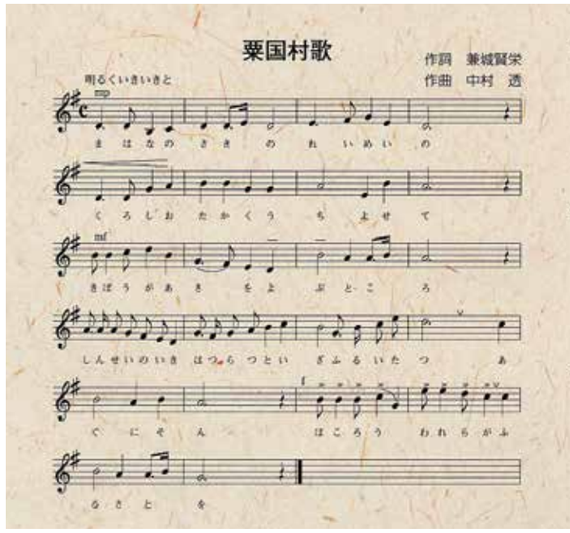
古くから村内の原野や浜辺に自生し、純白の純粋な心と堅い団結心を表現し、
その芳香は村の限りない発展を象徴する。
［平成11年6月14日選定］

村花木 ソテツ

ソテツ科の常緑小低木。原産地は九州南部及び南西諸島、中国南部で雌雄異株。

選定理由

戦前・戦後の食糧難の時、葉は燃料として実や芯は食材として、また雄花は肥料として
飢餓から救ったソテツの恩恵に対し「生きる力」の象徴として「粟国村の花木」に値する。
［平成11年6月14日選定］



粟国村歌

1. マハナの岬の　れいめいの
黒潮高く　うち寄せて
希望が朝を　呼ぶところ
新生の意気　はつらつと
いざ奮い立つ　粟国村
誇ろうわれらが　ふるさとを

2. 輝く空よ　白浜よ
平和の息吹き　みなぎりて
るり紺碧に　澄むところ
繁栄の歌　たからかに
いざ励みゆく　粟国村
伸ばそうわれらが　ふるさとを

3. 歴史を偲ぶ　八重川城
文化の光り　照り映えて
理想に燃えて　ゆくところ
躍進の道　手をとりて
いざ築きゆく　粟国村
仰ごうわれらが　ふるさとを

資　料　編

Aguni Village

平成28年度粟国村村勢要覧

平成29年3月発行

発　行／粟国村
編　集／粟国村役場総務課
〒901-3792
沖縄県島尻郡粟国村字東367番地
TEL:098-988-2016
FAX:098-988-2206
URL: www.vill.aguni.okinawa.jp/

印　刷／丸正印刷株式会社